

## 南ア月報

(2016年3月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

### 【内政】

- グプター族のズマ政権への影響力
- ANC全国執行委員会会議の開催
- ヌカンドラ問題に関する憲法裁判所判決

### 【外交】

- ズマ大統領によるナイジェリア国民議会演説
- ICC脱退を巡る南ア控訴院判決
- ズマ大統領によるベルギーテロ事件非難声明
- ズマ大統領によるサウジアラビア訪問

### 【経済】

- 経済成長
- 自動車販売
- 製造業・鉱業
- インフレ
- 米国産鶏肉
- 金鉱業
- 格付け
- 原子力

## 1 内政

### ●グプター族のズマ政権への影響力

16日夜、ジョナス財務副大臣は、昨年のネネ前財務大臣更迭劇直前、インド系政商グプター族よりアプローチを受け、財務大臣ポストをオファーされたことを認める声明を発表した。同副大臣は、「これは、南ア憲法と、南ア国民が苦労して手に入れた民主主義に対する侮辱行為であり、すぐにオファーを拒否した」と述べた。ジョナス副大臣は現在、約1.8兆ランド相当の資産を取り扱う公共投資公社(PIC)を所轄している。同声明は、これまで囁かれてきた、グプター族がズマ大統領と側近に近づき、自分たちのビジネス利益拡大のため財務省を自らの影響下に置こうとしているとする噂に真実味を与えるものである。

与党アフリカ民族会議(ANC)のマンタシェ事務局長は、この発表に関し、「寡頭制独裁者(oligarch)たちを罰しなければ、南アは家族ビジネス拡大のために存在するマフィア国家になってしまう」として警鐘を鳴らした。グプター族は本件について一切の関与を否定している。

### ●ANC全国執行委員会会議の開催

18日から20日にかけて、ANCの全国執行委員会(NEC)会議が開催された。開催後マンタシエ事務局長は声明を発表し、主に南ア経済、統一地方選挙、ビジネスによる政権への影響について述べた。ゴードン財務大臣と南ア歳入庁(SARS)との緊張関係については、早急の解決がなされるように呼びかけるとしながら、NECは財務大臣に全信頼を寄せるとした他、地方選挙については4月16日にネルソン・マンデラ・ベイにおいて党マニフェスト発表大会を予定しており、大会後ANCは活気に満ちたキャンペーンを開始すると宣言した。グプター族による政府への影響力については、ANCに対して影響力を及ぼそうとするいかなるビジネス一族の存在も断固拒否すると共に、大統領に対する完全なる信頼を再度確認するとする一方で、ジョナス副大臣やその他のANC議員がグプター族より閣僚ポストをオファーされたという噂について、適切な情報収集を開始すると締めくくった。

### ●ヌカンドラ問題に関する憲法裁判所判決

31日、憲法裁判所は、クワズールー・ナタール州ヌカンドラに所在するズマ大統領の私邸に警備対策費と称して多額の公金が支出されたいわゆるヌカンドラ問題に関して、マドンセラ護民官により提示された救済措置に法的拘束力を認めると共に、ズマ大統領は警備対策費に当たらない個所について返金する義務があるとの判決を全員一致で下した。同日夜、ANCは声明を発表し、憲法裁判所の判決に敬意を表し、本判決の深刻な性質に鑑みて、詳細に検討し、いずれコメントを発表するとした。

## 2 外交

### ●ズマ大統領によるナイジェリア国民議会演説

8日、ナイジェリアを公式訪問中のズマ大統領は、ナイジェリア国民議会で演説を行った。同演説では、ナイジェリアによる過去の反アパルトヘイト闘争への協力・支援について多くを言及した。その他の主な演説内容は、(1) 経済の多角化の必要性、(2) 南アは、AU平和・安全保障理事会の機能化のためにナイジェリアと協働の用意があること、(3) 安保理、IMF、WTO及び世界銀行等の既存国際制度の改革の必要性で両国が一致したこと等である。

### ●ICC脱退を巡る南ア控訴院判決

昨年6月、バシール・スーダン大統領が逮捕されることなく南アを出国した件で、バシール大統領逮捕を命じた高裁判決を不服とし、政府が控訴院に上訴していたが、15日、控訴院は政府弁論を棄却する判決を下した。なお、与党ANCは声明を發出し、判決内容を検討する(study)と述べている。

### ●ズマ大統領によるベルギーテロ事件非難声明

22日、南ア国際関係・協力省は、同日にベルギーで発生したテロ攻撃に関するズマ大統領声明を発表したところ、主な内容は、以下の通り。

- (1) 南ア政府は、国際社会と共に、今朝ベルギー・ブリュッセルで発生し、その結果多数の無実の民間人が死傷したテロ攻撃を強く非難する。
- (2) 南ア政府と国民を代表して、ズマ大統領は、シャルル＝ミッシェル首相、ベルギー王国国民、特に犠牲者家族に心からのお悔やみの言葉を伝えた。
- (3) 南アは、国際社会と共にテロ攻撃を強く非難すると共に、改めて如何なる形及び場所であっても、テロ行為は許されないと立場を表明する。

### ●ズマ大統領によるサウジアラビア公式訪問

26～27日、ズマ大統領は、サウジアラビアを公式訪問し、国際関係・協力省は、同訪問結果の概要を発表したところ、主なポイントは以下のとおり。

- (1) ズマ大統領によるサウジアラビアへの公式訪問は成功裡に終了。
- (2) 今後、南アはサウジのインフラ開発に参加、サウジは南アに於けるビジネスを支援。
- (3) ズマ大統領は、サウジ国王から特別な最高位の勲章を授与された。
- (4) 南アは、サウジの地域安全保障の課題を外観し、非常に満足との大統領の感想。今後、両国は、より緊密に情報共有に向けて協力。
- (5) 両国は、南アのイスラム諸国会議機構のオブザーバー資格申請支援を行うことで合意。

## 3 経済

<経済指標>

### ●経済成長

南ア統計局によると、2015年の南ア経済成長率は、旱魃による農業分野の不振により、2014年の1.5%よりから1.3%へ下がった。

### ●自動車販売

新車販売台数は対前年比で6.1%下落。2月の新車販売台数は32,826台と昨年の34,947台からやや減少。2月の小型・中型商用車販売は前年比13.1%(13,161台)、12.9%(659台)と減少。大型トラックとバス販売は2.3%(1,503台)減少。

### ●製造業・鉱業

南ア経済の20%を占める製造業と鉱業の停滞は、今年の南ア経済の低い成長率を示している。南ア統計局は、1月の鉱業生産の縮小は、12月の1.2%から前年比4.5%と深刻化したと述べた。また、製造業生産指数は12月の0.5%増加から2.5%減少と転じた。

### ●インフレ

消費者インフレは2月に7%まで上昇し、過去7年間で最も高い記録となり、南ア準備銀行の政策金利の値上げの正当性を示した。経済が停滞しているにも関わらず、今後も更なるインフレ上昇が懸念される。エコノミストによると、今後も上昇が続くようであれば、南ア経済は不況に陥るだろうと述べている。3月にも政策金利を0.25ポイント引き上げ7%とした。長引く旱魃による食糧価格の上昇とガソリンや医療保険費用の増加がインフレを押し上げている。

<出来事>

### ●米国産鶏肉

米国通商代表部は、3月上旬に米国産鶏肉が南アの小売店に並んだことで、南アはアフリカから米国への輸出品の関税を免除する特惠関税制度を定めた米国のアフリカ成長機会法(AGOA)を維持するための条件に満足していると述べた。

### ●金鉱業

南アの金産業の利益は、過去10年間で最も高くなった。過去20年間は生産高の減少、暴力的な労働争議、コスト高に悩まされていた金産業界にとってこの急激な変化は良い兆しと受け止められている。今年は、全ての主要な資産を上回って再び金に注目が集まっている。一方で、金塊の売却利益は、ランド安による国内生産コストの削減と相まって、効果を上げている。昨年、主要な金生産者のなかで生産コストが最も高かった Harmony Gold Mining は、昨年の14,000

ランドの損失と比べると、第1四半期は1キロあたり約16万ランドで販売していると述べた。

#### ●格付け

格付け会社ムーディーズによると、説得力のある債務管理と更なる経済成長に対するショックがあれば、南アの格付けを下げるだろうと述べた。2月の財政演説では、格付け会社各社は財政赤字削減の詳細が欠けていると指摘した。

#### ●原子力

南アエネルギー大臣は、9600MWの原子力発電所建設計画へのプロポーザル提案依頼のファイナライズと発行を今月末までに行うことを指示した。これは、エネルギー省が資金計画を形成するための情報集め及び市場のテストであると、エネルギー省次官は述べた。財務省は準備作業のために2億ランドを割当てたが、財務大臣はファイナライズするためには数年かかるだろうと強調した。

### 4 広報文化

#### ●「産業集積と発展」をテーマとした講演会の実施

当館及びプレトリア大学日本研究センターの共催により、政策研究大学院大学教授大塚啓二郎氏を南アに招へいし、「産業集積と発展」をテーマとした同教授による講演会が、プレトリア(8日)、ヨハネスブルグ(9日)、ステレンボッシュ(11日)において、それぞれ実施された。

#### ●日本食デモンストレーションの実施

南ア政府関係者、食品企業、レストラン、ホテル関係者等を対象とした日本食デモンストレーションが、プレトリア(11日)、ヨハネスブルグ(14日)、ケープタウン(17日)において、それぞれ実施された。デモンストレーションでは、講師として日本料理店「しち十二候」総料理長・齋藤章雄氏を迎え、同氏により南アの食材を利用した日本食のレシピ・調理方法が紹介された。また、JETROとの共催により、ヨハネスブルグ及びケープタウンのデモンストレーションでは、日本食材のサンプル紹介や商談会等が併せて実施された。

#### ●ポップカルチャー・イベントの実施

当館及びプレトリア大学日本研究センターの共催により、日本のポップカルチャーを紹介するイベントが、ヨハネスブルグ(18日)及びプレトリア(19日)において、それぞれ実施された。18日のイベントでは、新潟大学准教授キム・ジュニアン氏及びヴィッツ大学メディア学部専任講師コブス・ファン・スターデン氏によるレクチャー及びディスカッションからなるセミナー、19日のイベントではキム准教授による講演及びスタジオ・ジブリ作品「かぐや姫の物語」の映画上映がそれぞれ行われた。

### 5 警備

#### ●テロ情勢について

世界中の武装勢力がISILに傾倒する中、サハラ・西アフリカ地域では、イスラム・マグレブ諸国のアルカイダ(AQIM)による脅威が高まっている。3月14日、コートジボアールのグランバッサムにおける銃撃テロ、1月15日ブルキナファソのワガドゥグーでのホテル襲撃テロ、そして昨年マリの首都バマコで発生したホテル襲撃テロと、いずれもAQIMが関与したテロと見られている。3月16日には、昨年6月に内戦下のシリアに入国後に行方が分からなくなっているフリージャーナリストの安田純平さんを名乗る男性の映像がインターネット上で確認されたが、国際テロ組織アルカイダ系のヌスラ戦線に拘束されたとの情報がある。このヌスラ戦線については、

南アにおいて国内の組織犯罪グループと関連しテロ資金を獲得しているとの情報や戦闘員をシリアに排出するオペレーションが進行しているとの指摘がある。

アメリカ・シンクタンク「戦争研究所 (ISW)」、「アメリカン・エンタープライズ研究所 (AEI)」によれば、ヌスラ戦線は米国にとって、ISILを上回る脅威であるとする見方もあり、今後、ISILの台頭に対抗し、組織再編に向けて動きを活発化させているAQIM及びこれに共闘する武装勢力の動向を注視する必要がある。

(了)